

COE セミナー（2003年12月4日） 2003年総選挙をふりかえって 蒲島郁夫・菅原琢
2003年総選挙を分析する上で鍵となるのは、小泉安倍効果の強さと公明党の影響力である。
前者の影響は小選挙区よりは比例区で大きかったが、それでも都市の選挙区では帰趨を左右した可能性が高く、2000年の森執行部と比較すると小選挙区でも14から30議席を増やす効果があったと予想される。しかしそれ以上に公明票は大きな影響を持ち、今回の選挙で公明票の8割が棄権したならば、自民党は70以上の選挙区で議席を失いかねなかった。他方公明党は選挙区における協力の見返りとして自民党支持者から多くの比例票を獲得した。一方民主党は都市部や中間部の選挙区では議席を増やしたが、比例での議席増加の原因は支持基盤の拡大というよりは、自由党との合併効果及び小政党に不利なブロック制の影響で他の小野党から議席が回ったことに起因する。今後の政権交代の可能性は自民・民主の二大政党だけではなく、公明及び共産という小政党の戦略が鍵を握ると考えられる（407字）。質疑応答では投票率低下の原因やマニフェストの影響、戦略投票の規模や各テレビ局が議席予測を大きく外した原因などについて活発な議論が行われた。